＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4679600082
法人名	医療法人　沖縄徳洲会
事業所名	グループホーム　ゆんぬ
訪問調査日	平成　22　年　3　月　18　日
評価確定日	平成　22　年　4　月　21　日
評価機関名	特定非営利活動法人　社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果 概要表

作成日 ################

【評価実施概要】

事業所番号	4679600082
法人名	医療法人沖縄徳洲会
事業所名	グループホーム ゆんぬ
所在地	大島郡与論町茶花302番地5 （電 話）0997-81-3919

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成22年3月18日	評価確定日	平成22年4月21日

【情報提供票より】（ 平成22年 3月 1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	8 人	常勤 8 人，非常勤 人，常勤換算 8 人

（2）建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ～ 1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	10,500 円		その他の経費（月額）	3,000円（水道光熱費）
敷 金	有（ 円）		○無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） (無)		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		円	

（4）利用者の概要（ 3 月 1 日現在）

利用者人数		8 名	男性	2 名	女性 6 名
要介護1		3 名	要介護2	3 名	
要介護3		2 名	要介護4	0 名	
要介護5		0 名	要支援2	0 名	
年齢	平均	93 歳	最低	84 歳	最高 100 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	与論徳洲会病院 ・ 児玉歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所名の「ゆんぬ」は地域語で「与論」を指す。ホーム周辺は住宅や畑があり静かであるが、近くには役場、郵便局、小学校、病院、観光協会、商店があり生活しやすい環境である。この事業所は医療連携や短期利用共同生活介護を行っており島内唯一のグループホームでもあり地域では重要な役割を果たしている。ホームでは管理者を中心に職員は利用者の人格を尊重し自立に向けた支援と一人ひとりの地域関係の継続維持と地域交流の支援を理念に掲げ実現に向けて具体的な取り組みを図っている。明るい建物の中では職員と利用者の信頼関係ができており落ち着いて和やかな雰囲気のあるホームである。

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回の評価での改善課題はない。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 管理者は自己評価票を全員に配り、職員は自分のやってることを振り返り意見の書き込みをしている。ミーティングで振り返りや改善点を話し合い管理者がまとめて作成している。一人ひとりが取り組むことで自己の改善点の気づきや自発的な努力に繋がる効果をあげている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 会議は2ヶ月に1回、利用者家族・地域住民代表・包括支援センター職員・グループホーム知見者などのメンバーで開催されている。会議では利用者の状況、職員研修、外部評価、行事報告など行いホームの問題点の相談などしている。メンバーからの意見やアドバイスをもらい毎月開催される地域の老人会へ参加するようになったり、園外活動のボランティアを頼んだり、認知症の勉強会や救命救急の研修をしホームの理解を図るなどサービスの向上に活かしている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 家族には毎月利用者の様子や健康状態など報告している。家族からの意見を聞けるように面会時は意見を聞く姿勢で接し、その他家族会の開催や、運営推進会議、苦情相談窓口設置など意見の言える機会を設けている。意見が出た場合は職員間での話し合いや法人との話し合いなど解決に向けて対応し、運営に反映させるようにしている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 自治会に加入し毎月老人クラブと交流したり、婦人会から踊りのボランティアを受け入れたり、地域の行事情報を貰い、夏祭り、小学校の運動会などに参加している。中学生の福祉活動や職場体験の受け入れもしている。地域性もあり家族や利用者の知り合いが気軽に立ち寄り、自宅での関係を継続できるように交流の支援をしている。

2. 評　価　結　果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時の理念に平成19年管理者と職員で地域密着型サービスとしての理念「地域交流との繋がりを大切にし交流を深めていきます。」を加えた事業所独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時や朝の申し送り時に理念を唱和し理念の共有を図っている。地域との交流や人格の尊重・自立した生活の支援の実践に向けて取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人クラブ会長には運営推進会議メンバーになってもらい、毎月の老人クラブ活動に参加している。小学校の運動会参加、中学生の職場体験や福祉活動の受け入れ、ホームの行事時には婦人会から踊りのボランティアをもらうなど地域との交流に努めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解し外部評価の改善点に向けて努力し、自己評価の取り組みにも全職員で取り組み一人ひとりが日頃の取り組みについての考えを書き、ミーティングで話し合い振り返りや改善点を話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や行事活動、外部評価、職員研修などの報告をし、ホームの問題点の相談など行い意見やアドバイスをもらっている。毎月開催される地域老人会へ参加したり、ボランティアを受け入れたりサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	島のグループホームは1ヶ所で、町の担当者は協力的で介護保険関係についての書類の手続きや入居状況など相談している。町からも必要な書類を届けてもらうなど行き来しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には8人の職員で月初めに「状況報告」を作成し健康状態・食事・入浴・排泄・睡眠・レクレーションなど日頃の様子を知らせている。その他年3回ホーム便りを発行したり、面会時や電話などでも随時報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には意見を聞く姿勢で接し、その他家族会・運営推進会議・苦情窓口など意見が出せる機会を設けている。意見が出た場合は職員間での話し合いや法人との話し合いで解決に向けて対応し運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人異動は極力しない方針であるが昨年は一年間の異動は1名であった。方言が喋れる職員の受け入れをし利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。管理者は職員の悩みの相談や勤務希望の取り入れなど職員の定着に努力している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て法人研修や内部研修を計画的に行っている。島外の研修への参加は少ないが、参加した人が研究報告や伝達をし、全員の学習に繋がるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内に同業者は無く、管理者・職員は島外の系列のグループホームと交流機会を持ち交代で1泊～2泊の研修を行っている。会議の他季節的な行事や老人クラブとの交流など体験し研修報告している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には利用者・家族に見学してもらい、他の利用者と一緒にお茶飲みや昔話など体験してもらうなど、徐々に馴染んで納得した上で利用を開始している。入居してからも不安にならないよう顔馴染みの人が対応するなど工夫している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一方的な関わりにならないように人生の先輩である利用者から薬草の利用や天気予報など生活の知恵を教わったり、島の歴史を学んだりしながらお互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者・職員は日常の利用者との会話に耳を傾け、特に居室でゆっくり話す時本音が出やすいことを周知しており、本人の希望や意向の把握に努めている。意思表示が困難な利用者の場合は表情をくみとるようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の望む暮らし方について家族の訪問時に家族の意見を聞き、職員はミーティングで意見を出し合いそれぞれの意見を反映し本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回短期目標計画の見直しを行い、6ヶ月毎に長期目標の見直しをしている。定期的にケアのチェックとモニタリングを行い計画に対応できない状況が生じた場合見直し前であっても本人・家族・主治医・職員・と話し合い新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体医療機関と24時間の医療連携体制を活かし医療処置を受けながら生活の継続や重度化・終末期の入院回避をしている。空き部屋がある場合ショートステイの対応をし、通院や特別な外出についても柔軟な支援をしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医にしており、それぞれのかかりつけ医の定期受診の支援をしている。少しの体調変化時や急な体調変化の対応にも適切な医療が受けられるように支援し家族との連携も密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年重度化した場合や終末期のあり方について指針を作成し、入居中の利用者・家族の意思確認をしている。新しい利用者には入居の段階で指針の説明をし意思確認を求めている。重度化した場合家族・医師・職員は繰り返し話し合い全員で方針を共有している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを尊重し、羞恥心に触れる会話は人前ではしない、名前の呼び方、個人情報の守秘義務などプライバシーの保護の確保を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な時間の流れはあるが、日々の支援は本人のペースに合わせて起床、就寝、レクレーション、入浴、外出など時間の強制をしないで一人ひとりに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけは利用者が出来ることは一緒にしてもらい、家庭的な小テーブル3台に分けて小さい声でも話せるようにしている。各テーブルに職員が分かれて座り利用者と一緒に家庭的な楽しい食事時間を過ごせるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間は本人の希望に応じて支援している。冬は最低週2日、夏は毎日入浴できるように支援している。浴槽がタイル張りで淵が厚く、深い構造のため職員一人では湯船での入浴は対応できずシャワー浴をしている。	○	運営者・管理者・職員で話し合われ利用者が安心してゆっくり湯船で入浴が楽しめるように工夫をしていただきたい。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の能力や好みに応じて食事の準備や片づけ、洗濯物たたみなどしてもらい必ず感謝の言葉をかけている。外に出かけたい人や三味線を弾く人、島唄を歌う人、踊りが好きな人などの楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に合わせ、島内の行きたい場所（神社詣り、買い物行き、自宅帰り、海を見る、行事参加、お茶飲みなど）に車で出かけている。ホーム周辺を車椅子で散歩したり、敷地の菜園に出かけたり外気に触れるようにしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関や居室に鍵はしていない。職員同士で連携をとりながら利用者の所在確認をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回は消防署の協力のもとに火災時の消火・避難訓練をし、自主訓練も年1回行っている。消火器、煙探知器は備えてあるが、自動通報装置はない。ガスや灯油の使用もあり夜間帯の職員一人には職員も家族も不安が大きい。緊急連絡網に地域の人を加えて火災時の協力体制をしている。	○	建物に非常口がなく火元が台所の場合避難誘導が困難な部屋もあり、どのように避難するか十分な検討や訓練をして頂き夜勤者が自信を持って勤務できるように望みます。　台風時の備蓄はしているが、地震などの非常時にも備蓄されることが望ましい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に助言をもらいバランスのとれた献立の工夫をしている。食事や水分量の記録をして一人ひとりの摂取量を把握している。食べ易いように調理したり、代替品の使用などで摂取量の確保に努めている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂に観葉植物や花を飾り、季節に応じた作品を壁に展示するなど安らぎや季節感を採り入れている。よしずやすだれを使った西陽対策や窓を使った換気などこまめな温度管理をし、和室や交流室で気の合う人同士で会話を楽しむことができるなど居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の持ち込みベットのテーブルに時計が一つ、壁に上着が一着かかり、三段衣装ケースの上に花を飾り、歩行器がある整然とした部屋。持ち込みのテーブルはティシュ・洗面器・湯たんぽなど物置台に使用し、衣装ケースの上に沢山の衣類を積み重ねなんでも手近に取れるようにしてある部屋など本人の居心地良いスタイルになっている。		